

未曾有の震災を乗り越えるには一観光と交通インフラの課題を考える

# 大震災と観光の将来

6.24 [FRI] 14:00~17:00  
函館市中央図書館  
【参加無料】

主催 / NPO法人スマートシティはこだて  
はこだて観光情報学研究会  
後援 / NPO法人観光情報学会  
連絡先 / 0138-83-1703  
(NPO法人スマートシティはこだて事務局)

このたびの東日本大震災は、地震・津波による東北・北関東での直接被害が未曾有の規模に達しただけでなく、それに続く福島原発の放射能漏れ事故で国家的規模で深刻な事態が生じています。函館においても、市内での浸水被害のみならず、通信・交通の途絶などが生じました。そして震災後の観光客の激減も地域経済に大きな影響を及ぼしています。こうした中で、情報科学の視点から多くの反省や課題が生れています。今回は観光マーケティングとマルチエージェント分野の専門家おふたりを招いて、この度の震災に関わるテーマでお話をして頂きたいと思います。



写真提供 / 小田拓生  
3月11日(金)午後4時30分頃・ベイエリアにて撮影

## 【講演Ⅰ】14:10~14:55

大震災後。日本人の観光スタイルの転換が加速するか。  
～デュアル・ライフやロングスティへ～

奥山氏はJR海峡線で函館に向かう途中で今回の大地震に遭遇、10時間を車内に閉じ込められた。この体験も踏まえて、今後日本人の観光スタイルが大きく変わるのではないかと考えている。従来の一過性の短期観光旅行から、居住の危機管理対策としてのデュアル・ライフやロングスティへの関心が強まり、それが新たな観光誘客に繋がっていくのではないかとというテーマを論じる。

おくやま たかき

講師 / 奥山 高樹

(有)エスイーティ代表 観光マーケティング・プランナー

日本コダック(株)でマーケティング・広報宣伝を担当、2001年から現職。観光、公共交通の再生、特産品のブランド化などのコンサルティングに従事。経路案内(駅すばあと)などITを活用した企画コンサルティングなどに携わる。ホームページ「北杜の窓」は北海道を中心とした観光関係の情報発信・論評を随時掲載。 <http://hokutonomado.com/> (北杜の窓)



## 【講演Ⅱ】14:55~15:40

大規模デマンドバスの可能性と  
災害時交通情報

省エネ推進や低成長経済が前提となりつつある社会では、従来の消費生活の代名詞である車社会からの脱却を目指した地域公共交通の変革が必要である。その場合、単に「昔に戻れ」ではなく、より便利で安全な形での制度構築がなければ、社会は動いていかない。本講演では、デマンドバスを次世代地域交通としてとらえ、その可能性と災害時における情報活用のありかたを探る。

のだいつき

講師 / 野田 五十樹

独立行政法人産業総合研究所マルチエージェント研究グループ  
主任研究員

産業技術総合研究所で災害救助情報システム、社会シミュレーションなど多数の人間やシステムが相互作用をする系の挙動を円滑にする技術・手法の研究に携わる。「CBRテロ(化学兵器、生物兵器、放射性物質を用いたテロ)を想定した避難シミュレータ」「デマンドバス利便性の評価」など論文多数。  
<http://researchmap.jp/noda>



## 【パネルディスカッション】16:00~17:00

パネラー

奥山 高樹

野田 五十樹

中島 秀之(公立はこだて未来大学 学長)

松原 仁( " 教授 NPO法人スマートシティはこだて 理事長  
はこだて観光情報学研究会 主査)

スマートシティはこだてができること